

# 本気の地震対策



## 4. 家族会議と訓練

家族の安全は家族で守る。そのためには、防災について普段からよく話し合っておくことが大切です。

- ① 家の中ではどんな所が安全か
- ② 非常持ち出し袋に何を入れ、どこに置くか
- ③ 避難するとき、だれが何を持ち出すか
- ④ 火元をだれがチェックするか
- ⑤ 離ればなれの場所で地震に遭ったときに連絡先や集合場所をどこにするか

このようなことについて、家族の役割分担を含めて考えておきます。避難場所は地域ごとに決まっていますから、より安全な道すじ

## 5. 明日はわが身..

を確認するために、家族で実際に避難場所まで歩いてみたり、消火器の使い方を確認したりするのもよいでしょう。訓練すればするほど、いざというときに落ち着いて行動できるようになります。



科学技術が進歩を遂げた現代にあっても、だれ一人として地震の発生を予知できる人はいません。台風や大雨のように天気図に現れるものであれば、直前からでもある程度の備えは効くのですが。地震の恐ろしさとは、核兵器さえ超えてしまうこともあるとい

われるそのエネルギーはもろること、何の前ぶれもなく発生する突発性こそが、最大のポイントであるといえましょう。「何百年に一回起こるのかも分からないものにおびえて、ビクビクした人生を過ごすのはご免だ」。たいていのかたはそんな気持ちから地震そのものを意識の隅に追いやって、平和な日々を満喫しているのかも知れません。でも、その結果が阪神・淡路大震災のような大惨事だったとしたら。これは無視しては行かれないぞ」と思い始めたかたも多いはず。他人が転ぶのを見て靴のヒモを結んでも、そのうちまたヒモはゆるんでくるものです。きっかけを得たときばかりでなく、毎日ヒモを締めなおす気持ちを持ち続けてください。

おしまいに、阪神・淡路大震災で消防活動の陣頭指揮を執った、当時の神戸市消防局長のお話をご紹介します。「私たちも普段から防災訓練は行っていたのですが。市民の皆さんは、地震というものは神戸では起きないと思っていたようですから、あまり自分たちの意識の中になかったのではないのでしょうかねえ。私たちも現に、こんなにすごいのが来るとは思っていないませんでしたからね。地震に関しては、グラッと来るまではわからないわけですよ。何百年に一回は起こるかも知れないとか、何十年先に起こるかも知れないといながら、実は今日来るかも知れないのです。だから、やはりいざというときには自分たちがみんな街を守らなきゃいけないんだ、ということをもう少し皆さんに自覚していただけたら、と思っているんです」。

完全な地震対策はありません。しかし、ちよっとした心がけて防げる被害もたくさんあります。あなたは、本気で地震対策をしていますか？